

製品名: IL16 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab12503

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	IL16
別名	Pro-interleukin-16 [Cleaved into: Interleukin-16 (IL-16) (Lymphocyte chemoattractant factor) (LCF)]
遺伝子 ID	3603.0
SwissProt ID	Q14005
免疫原	アミノ酸 900~960 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

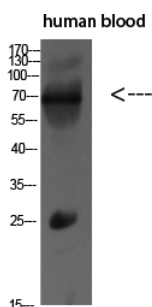
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、走化性因子、T細胞活性化の調節因子、および HIV 複製の阻害因子として機能する

多面的サイトカインです。このサイトカインのシグナル伝達プロセスはCD4によって媒介されます。この遺伝子産物はタンパク質分解を受け、2つの機能性タンパク質が生成されます。サイトカインとしての機能は分泌されるC末端ペプチドにのみ起因し、N末端産物は細胞周期制御に関与している可能性があります。カスパーゼ3は、このタンパク質のタンパク質分解に関与することが報告されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2010年2月],function:インターロイキン-16は、CD4+リンパ球、単球、および好酸球の遊走反応を刺激します。CD4+ T細胞をIL-2およびIL-15応答性にプライミングします。Tリンパ球におけるインターロイキン2受容体の発現も誘導する。CD4のリガンド。機能:アイソフォーム1は、膜にイオンチャンネルを固定する足場タンパク質として機能する可能性がある。機能:アイソフォーム3はT細胞の細胞周期進行に関与する。SKP2の転写制御に関与していると考えられ、SKP2遺伝子のコアプロモーター上の転写抑制複合体の一部であると考えられる。GABPB1 (GABP転写因子複合体のDNA結合サブユニット) およびHDAC3の足場として作用し、転写抑制を維持し、休止期T細胞の細胞周期の進行を阻害する可能性があります。誘導:アイソフォーム3は、TCR活性化後にT細胞でダウンレギュレーションされます。PTM:アイソフォーム3は、造血組織で化学誘引物質の不活性前駆体として合成され、カスパーゼ3によってタンパク質分解的に切断されてIL-16が生成されます。類似性:1つのPDZ (DHR) ドメインを含みます。類似性:2つのPDZ (DHR) ドメインを含みます。類似性:4つのPDZ (DHR) ドメインを含みます。サブユニット:ホモテトラマー (推定); (PubMed:9699630)によると、ホモ四量体タンパク質複合体の形成は走化性誘引物質としての機能には必要ではない。アイソフォーム3は (PDZ3ドメインを介して) PPP1R12A、PPP1R12B、およびPPP1R12Cと相互作用する。アイソフォーム1はPPP1R12Bと相互作用する。アイソフォーム3はGRIN2Aと相互作用する。アイソフォーム3はGABPB1と相互作用する。アイソフォーム3は (PDZ3ドメインを介して) HDAC3と相互作用する。アイソフォーム1はGRIN2D、KCNJ10、KCNJ15、およびCACNA1Cと相互作用する (類似性による)。アイソフォーム3はHTLV-1 taxと相互作用する。組織特異性:アイソフォーム3は、休止期T細胞などの造血組織で発現するが、活性T細胞増殖時には検出されない。、

研究分野

-

画像データ



MCF7 SW480 マウス肝臓マウス肺マウス腎臓ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は500に希釈されました。二次抗体は1:20000に希釈されました。